

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2007年2月)

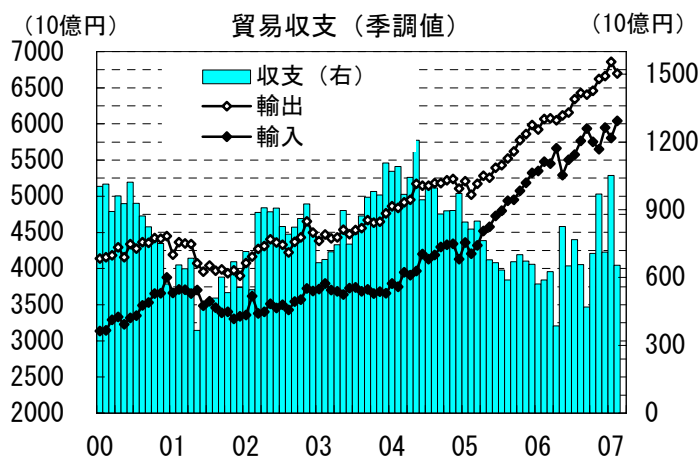
発表日2007年3月22日(木)

～輸出の伸びは大幅鈍化したが均してみれば堅調～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
06年2月	589	6067	5478	910
3月	625	6077	5452	939
4月	386	6049	5663	611
5月	826	6119	5293	356
6月	652	6156	5504	800
7月	769	6344	5576	851
8月	658	6427	5769	192
9月	471	6408	5937	1007
10月	707	6460	5753	613
11月	970	6621	5651	908
12月	712	6662	5949	1110
07年1月	1052	6858	5806	-2
2月	655	6699	6044	980

(出所: 貿易統計・財務省)  
(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
06年2月	20.7	5.3	14.6	8.4	5.4	16.0	31.3	28.0	2.6	6.9	5.8	3.2
3月	18.0	6.2	11.1	8.0	11.0	11.8	25.9	24.4	1.2	▲7.0	▲0.7	7.2
4月	11.3	4.7	6.3	8.7	1.8	6.6	21.1	15.5	4.8	▲15.0	▲3.6	11.3
5月	18.9	6.6	11.6	15.1	11.4	15.2	18.5	13.6	4.4	5.5	3.9	9.2
6月	14.5	5.3	8.7	2.5	12.1	7.8	18.4	13.4	4.4	▲0.3	▲3.0	9.7
7月	14.2	7.9	5.8	8.9	3.6	6.2	17.0	12.3	4.1	▲6.2	3.3	11.1
8月	17.5	5.0	12.0	13.0	7.7	10.5	16.2	13.6	2.4	6.4	4.0	4.7
9月	15.2	7.3	7.3	7.5	8.2	13.1	16.9	13.9	2.6	2.7	▲2.0	7.7
10月	11.6	9.7	1.7	10.3	▲1.3	6.7	17.5	8.8	8.0	19.7	4.3	12.3
11月	12.1	7.8	4.0	7.4	3.2	6.1	7.6	5.0	2.4	5.3	▲6.6	6.0
12月	9.8	5.3	4.2	6.7	▲2.6	8.4	7.8	3.2	4.4	▲10.6	8.7	7.2
07年1月	19.0	9.4	8.8	0.7	▲4.8	23.0	10.3	10.4	▲0.1	15.6	0.5	0.2
2月	9.7	11.2	▲1.3	1.7	▲0.4	2.3	10.1	2.1	7.8	3.7	4.3	16.5

## ○ 2月の貿易黒字額は前年比+7.7%

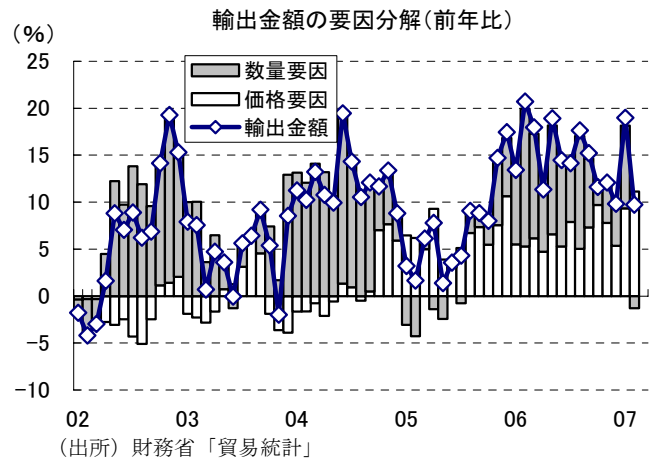
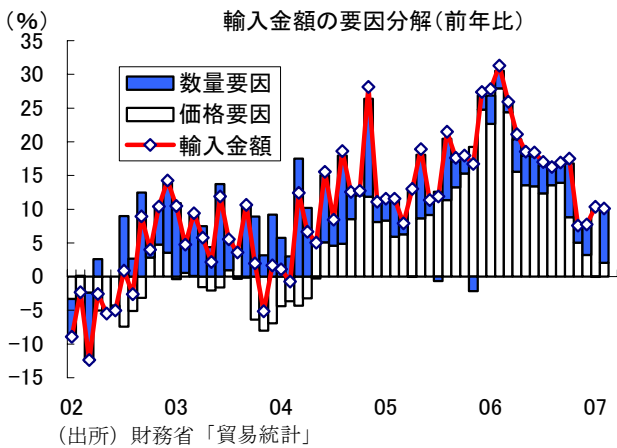
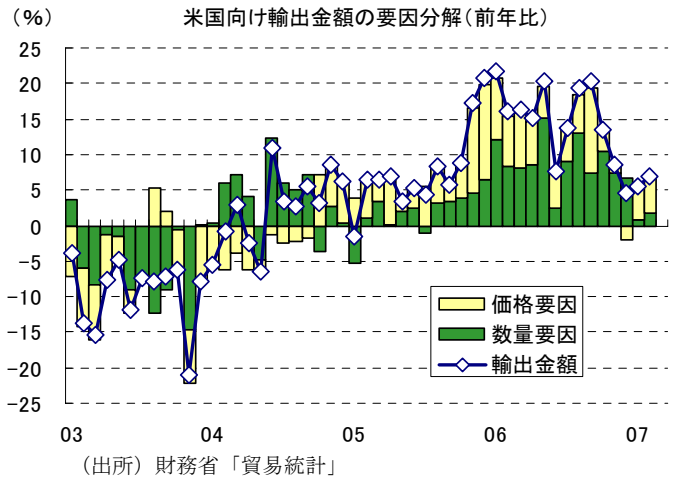
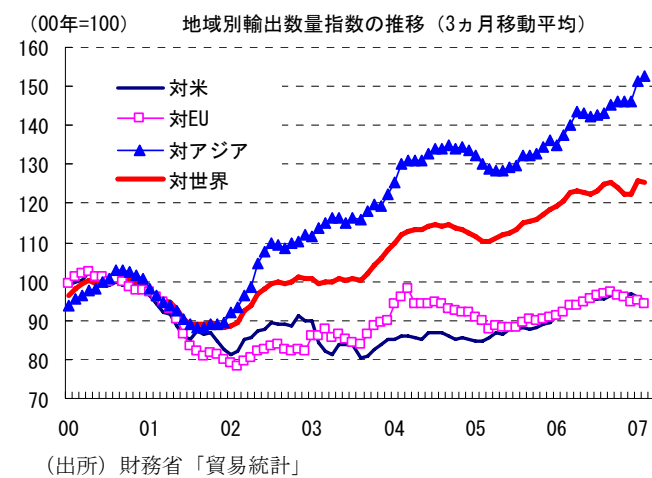
2月の貿易収支は9796億円(原数値)、前年比+7.7%と4ヶ月連続で増加した。輸入金額は原油価格が前年から下落したことから原粗油が前年比▲12.0%とマイナスとなったものの、衣類・同付属品、非鉄金属等が増加し、前年比+10.1%(前月同+10.3%)と輸入金額全体では前月並みの伸びとなった。一方、輸出金額は前年比+9.7%(前月同+19.0%)と大幅に鈍化した。輸出は特殊要因もあって伸びが鈍化した均してみれば堅調な推移となっている。

## ○ 旧正月要因の反動によりアジア向け輸出の伸びが大幅鈍化

数量ベースの輸出は前年比▲1.3%(前月同+8.8%)とマイナスに転じた。地域別にみると、米国向け(同+1.7%←前月同+0.7%)は小幅伸びが拡大し、EU向け(同▲0.4%←前月同▲4.8%)はマイナス幅が縮小したものの、アジア向け(同+2.3%←前月同+23.0%)の伸びが大幅に縮小した。主要地域ではア

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

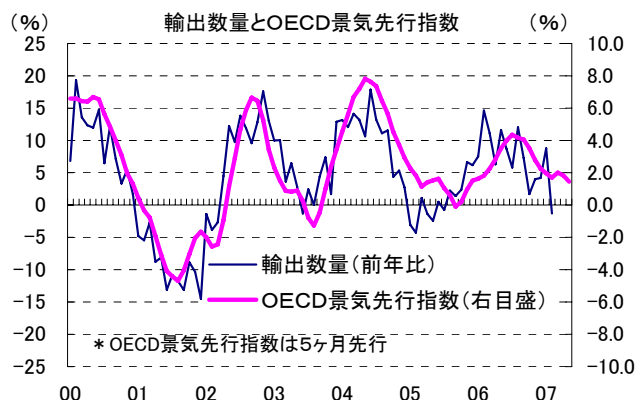
アジア向けの輸出の減速が顕著であるが、これは中華圏の旧正月による反動減の影響が大きい。1月に大幅に増加した反動を考えれば、引き続き堅調さが持続していると考えられる。米国向けについては、自動車輸出が年明け以降はやや増勢が鈍化しているものの堅調である。自動車は燃費性能など競争力が高く、06年に高い伸びとなった反動や現地生産の進展から伸びが縮小する可能性はあるものの、自動車輸出は先行きも堅調な推移が続こう。EU向けについてはこのところマイナス傾向となっているが、2月はマイナス幅が縮小した。2007年1月からのドイツ付加価値税の引き上げの影響は懸念材料ではあるが悪影響は限定的と見られること、円安・ユーロ高傾向となっていること等を考慮すれば底堅く推移すると見込まれる。総じてみれば、2月は特殊要因による反動減が大きく、輸出数量の基調を見る上では1-2月を均して見る必要があり、1-2月期は前年同期比+3.3%となった。06年10-12月期も同+3.3%であり、単月の振れは大きいもののトレンドとしてみれば大きな変化はみられていないと考えられる。輸出は増加テンポが緩やかに減速しつつも底堅く推移している。



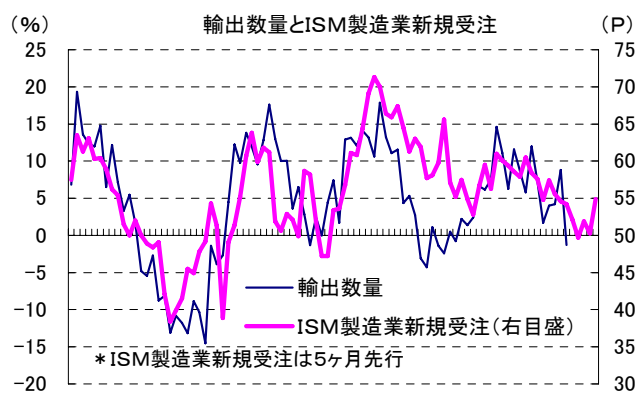
## ○ 輸出は底堅く推移し、07年後半以降は増勢が強まる見込み

輸出の先行きを展望すれば、輸出の先行指標であるOECD景気先行指数がこのところ下を向いている点はややネガティブである。もっとも、輸出への影響が大きい米国経済については減速傾向がしばらく続くものの、失速していく公算は小さいとみられる。サブプライムローン問題が住宅部門の調整を深刻化し、個人消費へ悪影響が及ぶリスクには注意が必要だが、現時点では個人消費への影響は限定的であると考えられる。さらにはISM製造業新規受注が2月に上昇したこと等を踏まえれば、海外需要が急速に落ち込んでいくことも考えにくい。今後も海外需要については注視する必要はあるものの、輸出は底堅く推移し、07年後半以

降は海外景気の復調によって輸出は増勢が強まることを見込む。



(出所) 財務省「貿易統計」、OECD



(出所) 財務省「貿易統計」、ISM